

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
220004	XYY3220004			国際学部国際文化学科 国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科 情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降) 情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度) 情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	共通 専門 専門 共通 共通	選択 選択 選択 選択 選択	3年 3年 3年 3年 3年
情報社会論	小宮山 智志	2	前期				

授業目的

消費化社会の最たるもの（のひとつ）が「情報化社会」です。ユニクロやヴィトンや、景気や戦争といったものは、「情報化社会」と一見関係ないようですが、大変、密接な関連があります。モノとしてよりも「情報」の部分に私たちは多くのお金を支払っています。そして「情報化社会」は、世界にとって、大きな光（経済的效果）を与えています。

「情報化社会」は、大きな光を放つために、影（私たちの生活を脅かすマイナスの効果）も作ります。国内に環境問題をおこし、さらに公害を輸出します。また発展途上国に貧困を作ると同時に我々“先進国の貧困”を作ります。

いままでの情報化社会を乗り越え、影を作らず、光を失わない「情報化社会」の条件を考え、さらにそのアイディアを具体的に我々の社会、暮らしに、そして大学の授業にも活かすことを考えます（皆さんの関心や理解に応じて、各回の内容・回数は変更する場合があります）。

各回毎の授業内容

第1回

【授】本講義の射程とスケジュール等について：行動科学で学んだ社会的ジレンマが、現実の社会現象でどのように深刻な問題を引き起こしているか、考えます。毎時間、グループワークを行い、授業内にレポートを執筆します。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・講義中に紹介する第2回の課題を検討してください。

第2回

【授】情報化/消費化社会の展開(1)：情報化社会の成立について、マクドナルドの事例から考えていきます。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第3回の課題を検討してください。

第3回

【授】情報化/消費化社会の展開(2)：情報化社会の意外な効用、経済における需要の創出効果について、まとめます。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第4回の課題を検討してください。

第4回

【授】環境の臨界/資源の臨界(1)：情報化社会によって、私たちが、どのように変化してきたのかを昭和30年ごろからの生活の変化から考察します。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第5回の課題を検討してください。

第5回

【授】環境の臨界/資源の臨界(2)：情報化社会によって、私たちが失ったものについて、考察します。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第6回の課題を検討してください。

第6回

【授】南の貧困/北の貧困(1)：第二章で学んだ情報化社会の影響が、国境を越えていくことを学びます。ナタデココの事例から読み解きます。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第7回の課題を検討してください。

第7回

【授】南の貧困/北の貧困(2)：ここまで情報化社会の需要創出効果のプラスの面とマイナスの面を振り返り、次の社会の在り方を考えます。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第8回の課題を検討してください。

第8回

【授】情報化/消費化社会の転回(1)：次の社会の在り方を映像資料をもとに、具体的に検討します。

【前・後】インターネットにて振り返りアンケートに回答・第9回の課題を検討してください。

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート	5	5	5	5	5	10	35
宿題・授業外レポート	5	5	5	5	5	40	65
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

グループワークまたは個人ワーク（35%）：自分の頭（知識理解・思考判断）と他人の頭をともに活用することを学びます（協調指導力・発表表現・関心意欲）。グループで相談しますがレポートは個人で執筆します（その他：オリジナリティ）

最終レポート（65%）：オリジナリティ（その他）と論理的思考力（知識理解・思考判断）が問われます。授業内で他者からコメントを得られる機会を設けます（協調指導力・発表表現）。テーマ選びに関心意欲が関連します。

教科書参考書

参考文献：見田宗介 1996 『現代社会の理論～情報化・消費社会の現在と未来～』岩波新書（465）

講義と並行してこの文献を読むことで「抽象的な理論を具体的な事例にあてはめて考える力」が効果的に身に付きます。

受講に当たっての留意事項

1. 体調不良、忌引き、就職活動、部活動などで欠席した場合、第16回の個人・ワーク・グループワークを行うことで、欠席した分の個人ワーク・グループワークを補うことが出来ます。

2. 授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。個人ワーク・グループワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達の意外なアイディアを楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

学習到達目標

抽象的な理論を具体的な事例にあてはめて考える力を養ってください（1~9回のグループワーク・最終レポート）。さらに自分で新しい理論を作るという発想を身につけてください（10~15回のグループワーク・最終レポート）。卒業してから、大学時代にはなかった新しい理論・考え方が出てくることでしょう。新しい理論が出てきても、現場で応用できる力、アレンジする力、そして自分で理論を構築する能力を身につけてください。さらに主体的に楽しく仕事する能力について考えてください。

もっと身近なところでは、就職や進学等の面接で、抽象的な事柄を、抽象的な言葉を使わずに具体的な事例を用いて、“自分”を伝えることに、この講義を役立ててください。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：H

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習